



聖木曜日 (ヨハネ 13:1-15)

ご自身を与える愛は、はるか昔に準備されていた

聖木曜日、イエスは弟子たちと最後の晩餐を囲み、生涯で最も意味深い弟子たちとの時を過ごしています。今、ミサをささげながら、同じ時間に心を合わせて祈っている田平教会の信徒の皆さんを思い浮かべ、イエスが残された愛の記念を、すべての人と分け合おうとしています。

今年は、イエスが入念に準備をしてからすべてのわざを行われたことを考えたいのですが、弟子たちとのこの最後の食事は、いつ準備をされたのでしょうか。

「どこに、過越の食事をなさる用意をいたしましょうか」(マタイ 26・17)。このときすでにイエスは準備が整っていて、すべての指示をその場で与えました。弟子たちは命じられたとおりに動くだけでした。

見た目には、弟子たちに尋ねられる少し前に、準備をしておられたように見えます。事実は、はるか昔に準備が始まっていたのではないのでしょうか。理解するには、最後の晩餐の意味を考える必要があります。

最後の晩餐は、イエスが聖体の秘跡を定めるための食事でした。聖体はもちろん、イエスの御体と御血です。イエスの御体と御血は、いつ準備されたのでしょうか。弟子たちが過越の食事の準備を尋ねたそのときでしょうか。

そうではありません。イエスの御体と御血が準備されたのは、マリアに天使ガブリエルが神のことばを告げに来たときでした。私たちが養われるイエスの御体と御血は、およそ30年も前、見える準備のはるか昔から、準備され、整えられてきたのです。

私たちはミサにあずかったとき、聖体拝領の1時間前から飲食をせず、準備の時間に充てます。だれも、「3時間前から食事を控えて、ミサに備えよう」とは思いません。私たちが養う主が30数年前から私たちの食べ物となるための準備をしてきたのに比べると、私たちの準備はあまりにも少ないと思います。

準備が足りないではありません。イエスがご自身を与えてくださるまでに費やした時間に比べたら、私たちの準備や必要な時間ははるかに少ないので、どれだけ感謝しても感謝しきれないということです。

今年、聖木曜日の典礼が実施されていたとしても、「洗足式は中止してください」という通達が来ていました。この洗足式も、イエスの準備は直前の準備だけではなかったと考えています。洗礼者ヨハネの洗礼を受けたとき、洗っていただく必要の無い方が、悔い改めの洗いの水を受けたのです。「わたしの足など、決して洗わないでください」(13・8)。ペトロのことばが洗礼者ヨハネに重なります。イエスははるか前に、足を洗うほどの深い愛を準備しておられたのです。

イエスは私たちにご自身を食べ物として与えてくださいました。はるか昔から、準備しておられました。イエスの深い愛に、私たちは身を委ねましょう。今はただ、イエスの深い愛に感謝する時です。イエスの愛に洗われ、愛の記念をありがたく受け取る時です。